

令和7年度釜石市総合教育会議

会議録

○日 時 令和8年3月17日（火）

午後1時30分～午後3時27分

○場 所 釜石市役所 第4庁舎3階 教育委員会会議室

釜石市教育委員会

令和7年度釜石市総合教育会議

次 第

日時：令和8年3月17日（火）

午後1時30分～

場所：第4庁舎3階 教育委員会会議室

1 開 会

2 挨 拶

3 説 明

(1)部活動地域展開に関する文部科学省の方針と当市の部活動の現状について

・・・・・・・・・・学校教育課

(2)当市の地域クラブ等の現状について・・・・・・・・・・文化スポーツ課

(3)取り組み事例発表・・・・・・・・唐丹中学校、釜石ヤングバレーボールクラブ

4 協 議

部活動の地域展開の現状と今後の方向性について

5 閉 会

総合教育会議出席者

構成員

市長	小野 共
教育長	高橋 勝
委員	佐野 茂 樹子
委員	花輪 妙
委員	中田 義 仁

事務局等職員出席者

総務企画部長	中村 達也
市民生活部長	佐々木 豊
教育部長	川崎 浩二
総務課長	笹村 聡一
学校教育課長	岩渕 勝也
学校規模適正化推進室課長	佐々木 薫
学校教育課主幹兼学務係長	鈴木 隆光
学校教育課主任指導主事	和田 智恵
総務課課長補佐兼総務係長	前川 恵美

説明者

文化スポーツ課長	山崎 強
唐丹中学校校長	金野 学
釜石ヤングバレーボールクラブ監督	蛸島 茂雄
釜石ヤングバレーボールクラブ理事	高木 未来

○川崎教育部長 本日はお忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。
皆さまおそろいになりましたので、ただいまから令和7年度釜石市総合教育会議を開催いたします。

はじめに、本日の出席者をご紹介しますので、よろしくお願いします。

○笹村総務課長 それでは、私から出席者のご紹介をいたします。

(出席者の紹介)

○川崎教育部長 ご紹介ありがとうございます。

それでは、引き続き次第に沿って進めさせていただきます。

はじめに、小野市長からご挨拶を頂戴したいと思います。

○小野市長 改めまして、小野でございます。

委員の皆さま方には、日頃から市の教育行政の推進に多大なるご協力を賜っておりますこと、この場をお借りいたしまして心から感謝を申し上げさせていただきたいと思っております。

釜石の総合教育会議であります。市長と教育委員会が十分な意思の疎通を図り、教育の課題等を共有いたしまして、より民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的として開催をさせていただいております。

本日の会議であります。部活動の地域展開の現状と今後の方向性についてということで議題とさせていただきます。国は、これまでの教育の働き方改革と併せ、部活動の地域展開を進めてまいりましたが、令和8年度からの6年間、地域展開を着実に進めるための改革の実行期間といたしまして、持続可能な取組を行うこととしております。釜石におきましても、令和5年度から3年間、地域クラブ等での活動や中学校の合同部活動を推進してまいりましたが、今後はこれまで以上に生徒の皆さんの活動場所、環境の整備、あるいは指導者を含めた活動体制の確保など、様々な課題を解決していかななくてはいけないというふうに思っております。

本日は、先ほど来申し上げましたとおり、今後の部活動の地域展開の目指すべき方向性についてということで、皆さまの忌憚のないご意見をお伺いしたいと思っております。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

○川崎教育部長 市長、ご挨拶ありがとうございました。

続きまして、教育長からご挨拶申し上げたいと思っております。

○高橋教育長 教育長の高橋です。

部活動の地域移行については、5、6、7年の3年間、国のほうでは地域移行という言葉で呼んでおりましたけれども、当教育委員会としましても、進めたいということで取り組んできたところです。この背景には、少子化によって各学校の部活動がなかなか単独では成り立たなくなっている。部活動が全入ではなくなりましたので、入らない生徒がいるということ、それから子どもたちの活動も多様化してきて、学校の部活動以外で活動している子どもも多くなっているということ、そういう中で学校の部活動の維持がなかなか難しくなっているという背景が一番大きなところです。それから、もう一つ、教職員の働き方改革を進めていかなければなりません。その2つのことを意図しながら、地域移行を3年間で進めてきたところですが、現状はなかなか厳しいものがあつたというふうに考えております。

当初は、いろいろな地域のスポーツ活動をしている団体等が受け入れてくれるのではない

かというところで、文化スポーツ課のほうからも働きかけていただきましたけれども、スポーツ団体等も厳しいという現状もありまして、この3年間で既存のサッカーやシーウェイクス等でやっているアカデミーのほかに、今回出席していただいております女子バレーの地域クラブ、それからバドミントンのほうでの地域クラブができましたけれども、なかなか厳しいところがありました。

そして、今般、12月に国のほうから新たに部活動の地域展開ということが示されましたので、教育委員会としても、示された方向性によって部活動の地域展開を何とかやっていきたいと考えているところです。

その中の1つとして、教育委員会としては、部活動でまず拠点校方式を取り入れながら、それを何とか地域クラブに結びつけていくことはできないかというところで考えているところです。今日はそういうことも踏まえながら、皆様のご意見、お知恵をお借りしながら、今後どう地域展開を進めていったらいいのかというところでご協議していただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○川崎教育部長 教育長、ありがとうございました。

それでは、3の説明に入ります前に、本日の会議の進め方についてご説明させていただきたいと思います。

本日の会議では、中学校部活動の現状と地域展開の取組状況について意見交換を行い、より良い方向性を見出してまいりたいと考えているものでございます。

はじめに、学校教育課と文化スポーツ課から学校部活動と地域クラブの活動状況の概要を説明いただいた後、実際の取組事例といたしまして、唐丹中学校さんと釜石ヤングバレーボールクラブさんから発表していただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、次第3の説明に入りたいと思います。

はじめに、説明(1)「部活動の地域展開に関する文部科学省の方針と当市の部活動の現状について」、学校教育課より説明をお願いいたします。

○岩淵学校教育課長 学校教育課の岩淵でございます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、部活動地域展開に関する文部科学省の方針と当市の部活動の現状についてをご説明いたします。

地域展開という言葉ですけれども、地域移行という言葉から始まって、今般、地域展開という、地域で支えるというようなところの色を少し大きく出しているという部分で、こういった言葉に今は置き換えられているということです。皆さまご存じのとおり、生徒のスポーツ・文化芸術活動を学校部活動から地域のほうに展開していくという動きでございます。

これまでも部活動に関する国や県の動きというのは、このとおりございました。スタートは、令和2年9月です。ここが大きなスタートだったかなというふうに記憶してございます。その次に令和4年12月に、ここでもまた大きな通知が出たところでございました。今般、令和7年12月に新たなガイドラインが策定されたというところがございますけれども、このあとの説明は、令和4年12月の通知を受けて、当市として取り組んできたことを前段にお話をさせていただきたいと思います。

令和4年度の部分では、改革の方向性がどのように示されていたかというところ、記載のとお

りとなりますけれども、丸の2つ目、当初目標時期は令和5年度から3年間かけて、令和7年度にある程度の目途を立てたい、立つのではないかというスケジュールを当初示されたということでした。丸の3つ目、平日の部活動の地域移行についても、休日からさらに増やして、平日の部活動の移行の更なる改革を推進するということです。丸の4つ目、地域におけるスポーツ機会の確保、生徒の多様なニーズに合った活動機会の充実に向けた取組について示されたところでございます。

当市のこれまでの取組については、多様なニーズへの対応ということで、自校の部活動にやりたい部活がなくて、他校にはあるという場合に、他校の部活動に参加できる仕組みをつくらせていただいて周知を行ったところでございます。種目は記載の5競技で、令和6年3月から受付を始め、対応してきたところでございます。実績はそんなに多くはございません。令和6年度は男子バレーボール部で1名、自校にないので、他校の部活動に参加したいという生徒さんがいらっしゃいました。今年度につきましても、自分の学校にバスケットボール部がないということで、他校のバスケットボール部に参加したいということで1名ご希望があり、通っていらっしゃいます。

こういったところの仕組みを教育委員会としても整えたつもりだったのですが、中学校体育連盟が主催する大会には、この形では出場できないということで、要は新たに申請をしなければいけないということが今年度途中で分かってきまして、この生徒さんにつきましては、急遽所属している学校に顧問をつけていただいて、合同部活動という形で対応させていただいたところでございました。ですので、こういった仕組みを新たにきちんと、中体連のほうの大会にも参加できるように整えないといけないというのが今年度進めながら出てきた課題でございました。

水泳、柔道につきましては、スイミングや道場等で既に生徒さんの活動が行われておりましたので、そういったところは既に地域のほうで取り組まれている競技であるというところでございます。

スポーツだけではなく文化芸術の方面でも、地域の活動団体さんで中学生の受入れが可能かどうかというところを文化スポーツ課のほうで取りまとめていただきまして、様々な団体さんで中学生が受け入れられていることを、令和7年度に各中学校のほうにこのチラシを配布して、ご希望があればということで連絡先等も記載して紹介をしたところでございます。将棋教室などそういったものもございます。これ以外にも、近隣の地域の陸上クラブや合唱に触れ合う機会などいろいろな団体さんからお知らせいただいておりますが、そういったところも随時学校さんのほうに紹介させていただいております。

さらに、今年度は部活動指導員を3名任用いたしまして、専門的な指導を行っていただくだけでなく、顧問がいなくても休日の指導や大会等の引率も可能でございますので、教職員の働き方改革の部分でも大きく力を発揮していただいているところであります。

今般示されました国の基本方針ということで、主な内容についてご紹介をさせていただきたいと思っております。

理念については、おおむねこれまでの部分と大きく変わる部分はございません。生徒にとってスポーツ文化に親しむ機会を確保すること、地域全体で関係者が連携して支え合うこと、全ての生徒がそれぞれの希望に応じて多種多様な活動に参加できる環境を整備することということが、この地域展開の事業として新たに確認したところであります。

基本的な方針としましては、平日・休日を通した活動を包括的に企画・調整し、地域の実情等に応じた改革方針を決定の上、地域クラブ活動の認定等を行い、着実に改革を進めることが重要だということで、今回のガイドラインの中では、地域クラブ活動、認定地域クラブ活動といったところが大きな動きとして国のほうで示してきたところがございます。これは、次年度以降の取組のところでもまたご説明させていただきたいと思っております。

改革期間については、改めて示されました。令和5年度から7年度が改革推進期間としておりましたが、今度は改革実行期間ということで、今後6年間のスケジュールが、前期3年、後期3年というところで示されたところがございます。

この期間において、休日については、改革実行期間内に原則全ての学校部活動において地域展開の実現を目指す。休日は地域展開を実現するということです。平日についても、随時積極的に取り組んでいくことということで示されております。

当市の課題については、大きくは3つ挙げられます。1つ目は、生徒数が減少傾向にあるということです。それによって、単独校でチームが組めないという状況になっています。2つ目としては、先ほども少しお話しさせていただきましたが、在籍校にやりたい部活動が設置されていない。学校のほうでも部活動に所属する部員が少なくなるということは、部活の存続等についても検討しなければいけない状況になってきますので、今後そういった活動する部活がどんどん減少していくのではないかとということも考えられるところです。3つ目は、ほとんどの競技において、地域クラブの活動体がなかなかないということ、そして指導者もないという地域の実情があるということが挙げられます。

1つ目の単独校でチームが組めないというところですが、この表は、今年度の1・2年生の各学校、競技別の部員数になります。例えば、甲子中学校の野球部については、次年度だと5名ということで、チームが組めないということです。あとは、例えば釜石東中学校にしても、部活動の門戸は開いていますが、入部する部員がないというところです。サッカーもそのとおりです。個人競技ができる卓球などは、人数がある程度少なくても活動というのは考えられるわけですが、例えばバレーボールのほうを見ても、釜石中学校では女子1名、釜石東中学校も2名だけということで、単独ではチームがつかれないということです。そして、これが今後も増えていくのではないかとということも考えられます。

続きまして、先月、小学校6年生から中学校2年生を対象とした、部活動に関するアンケートを行った調査結果についてご説明いたします。その中で、中学校1・2年生を対象に、「現在加入している部活動はやりたかった部活動か」ということで質問をさせていただきました。「やりたかった部活動である」答えたのは205名、「やりたかった部活動ではない」と答えたのが23名でした。やりたかった部活動ではないと回答した23名が加入したかった部活動の結果は記載のとおりです。

こちらは、学校部活動と地域クラブ活動の両方に加入している人も中にはおりますので、同じような質問をした際の回答ということになっています。

次に、6年生に調査しました。「あなたが進学する中学校にある部活動は、あなたがやりたい部活か」という質問をしたところ、「やりたい部活動がある」と答えたのが75名、「やりたい部活動ではない」と答えたのが11名でした。この11名の詳細調査を行ったところ、ここにあるように多くの児童にとって、進学先にやりたい部活はあるということでした。

ここは質問の捉え方というところがうまく伝わらなかったのではないかと感じておりました。

あとは、ほとんどの競技において、地域クラブの活動体がなく、指導者がいないというのは、文化スポーツ課のほうでも動いていただいている部分ですけれども、議会のほうでもお話しさせていただいておりますけれども、なかなか受入れ団体、指導者がいないというのが当市の現状でございます。

参考ということで、幾つかご紹介させていただきます。

6年生に、「学校部活動や地域クラブへの加入についてお答えください」ということで、「学校部活動に加入したい」と答えた児童さんは86名です。「地域クラブに加入したい」と答えたのは22名、「両方に所属したい」という方は24名、「どちらにも加入予定はない」という生徒は19名ということでございました。

あとは、「学校部活動に加入したい」と答えた86名が加入したい部活動については、バドミントンが最近では人気があるかなというふうに捉えています。野球は3名、サッカーは1名ということで非常に少ない状況です。

先日、県内で地域との連携や地域クラブの活動が充実していると言われております花巻市の取組を勉強しに、花巻市教育委員会のほうに訪問し、様々なお話を伺ってきました。

花巻市は、地域クラブが数多くございまして、活動の場もたくさんございますけれども、一番の部分は、地域連携型学校部活動という形を取っているのが非常に特徴的かなと思ったところです。学校の部活動の活動体をそのまま残して、そこに地域の指導者を入れて、休日等の指導をその方をお願いし、指導時間に応じた謝金等を払うというものです。多くの学校の部活動が、保護者会の組織を生かしながらこの形で地域で部活動を支えているというのが花巻市の取組でございました。花巻市では、この形を通じて、地域の方々の関わりをより多くしていくことで地域展開につなげるという方向性であるということでございました。

内容について、地域連携型学校部活動と学校部活動に地域の指導者を加えて部活動を行う。指導者は、必要な講習を受け、スポーツ指導員として登録されます。スポーツ指導員がいる部活動を地域連携型学校部活動と呼ぶということです。休日の活動は、スポーツ指導員等が対応できるということです。スポーツ指導員については、指導員は1時間1,600円の謝礼と、活動回数に応じた旅費が支給される。最大105時間。スポーツ指導員がいる活動団体は、利用施設の使用料の減免もあるということです。要は地域クラブでも、スポーツ指導員をやる場合には同様の扱いとなるということでございます。今年度の実績として、地域連携型学校部活動は55団体登録しており、地域クラブは27団体、計82団体で、スポーツ指導員を入れた活動を行っているということでした。

指導者の人材バンクも同時に行っておりまして、学校とのマッチングも行っているということでした。あとは、これらの事務に対応する市職員の配置も行っているということのようです。

常に学校部活動を支える形がつくられやすいということで、これもいいのかなと思うんですけども、釜石市はそもそも単独でチームが組めなくて、毎年どこどこが合同チームになるかなど、そういう心配がつきまといますので、指導者の不足に加えて、指導者を安定的に配置できないという部分がやはり大きな課題としてあり、花巻市の形をそのまま取

り入れるには課題が多いのかなというふうに考えております。

安定的に活動体を組織していくには、少ない人材を活用して持続可能としていくためには、ある程度活動体を集約していくという形を取らないと難しいのではないかと考えています。現在、次年度以降の取組について、そういったところの課題点等、どのように取り組むかというところの準備に取りかかっているところでございます。

現状については以上でございます。

○川崎教育部長 報告ありがとうございました。

学校部活動地域展開については、教育委員会の学校教育課と、あとはその地域展開の部分、地域クラブの部分で、文化スポーツ課のほうにも取り組んでいただいております。

続きまして、当市の地域クラブ等の現状についてということで、文化スポーツ課より説明をお願いいたします。

○山崎文化スポーツ課長 それでは私のほうから、当市の地域クラブ等の現状について、お手元の資料ナンバー2をご覧くださいと思います。よろしく申し上げます。

今、岩淵課長が説明した中において、受皿となり得る釜石市の地域クラブや各種協会について、今後指導者として受皿になれるかどうかというのを踏まえ、現状をご説明させていただきたいと思っております。

まず1番目、釜石市体育協会加盟団体の概要についてでございます。

令和7年度におきましては、37競技の各協会よりご加盟いただいております。そのうち、会員数の不足・高齢化・活動低迷を理由に、現在、4協会が休部になっているというところで、実質は33競技の協会が加盟されているということになります。

続きまして、2番、釜石市のスポーツ少年団本部についてでございます。体育協会の中に釜石市スポーツ少年団本部という組織がございまして、このスポーツ少年団本部とは、日本スポーツ協会、略してJ S P Oが設置する日本スポーツ少年団という組織をトップにいたしまして、都道府県、市町村、または地域の単位団という4つの団体に構成されています。

その中で、大きな役割として4つ掲載しておりますが、1つ目は地域内の単位団の登録・管理、2つ目は地域独自の交流大会、研修会等の企画・運営、3つ目は、指導者、団員に対する安全教育や育成、4つ目としてスポーツ活動の安全性の確保と公的な活動としての管理というところを主な役割として、スポーツ少年団本部に各団体が加盟されているというところでございます。

それでは、釜石でのスポーツ少年団の登録はどうなっているのかというところですが、この表のとおり、令和7年度においては16団体が少年団登録されております。なお、少年団登録というところに関しましては、主に小学生で構成されているチームというふうに理解いただければと思います。空手や軟式野球、剣道、サッカー、バレー、ラグビー、ミニバス等、16団体より登録をさせていただきます。

なお、このスポーツ少年団本部に登録されていない団体もございまして、今のところ全てにおいて把握ができていないというところでございます。

この団体の前年比でいいますと、令和6年度は20団体ありましたが、令和7年度は16団体、4団体減少となっております。やはりこちらのほうも、少年団での活動が低迷になってきたというところで、登録を辞退したというところになっているみたいです。

裏面をご覧ください。

このような現状において、当市での部活動の地域展開に関わる指導者の発掘や受皿を担えるかどうかというところで、我々としてはこれまで過去に2度アンケートを実施しております。まず、体育協会に加盟している協会へのアンケートについてでございます。こちらは令和5年に実施しております、38協会ありましたが、回答としては14協会の半数までちょっと届かないところで回答を受けたところです。

設問は結構多くありましたが、抜粋として以下の4項目を提示させていただいております。「地域移行の概要を知っているか」、「協会の中学校チームを構成しているか」、「協会外部コーチを派遣しているか」、「地域移行を協会で受け入れることは可能か」、というところに関しまして、主な設問とさせていただいております。ほとんどが地域移行の概要は知っているというところでしたが、おおむね協会での受入れは厳しいというお答えをいただいております。一定数の協会では中学生の受入れを可能という結果ではありましたが、そこに関しては既に中学生を受け入れていたり、進行中の団体であり、そのほかの多くの回答は、受入れは難しいという回答でした。要因といたしましては、会員数の減少や高齢化に伴いまして協会としての活動が低下している。また、派遣できる指導者がいないというのが大きな理由として、各協会への指導者の派遣要請等は現状では困難であることが見えてきたところでございます。

続いて、協会とは別に、スポーツ少年団登録をしている団体へ昨年度アンケートを実施しております。こちらに関しては、昨年度は20団体ありましたが、休止しているところがあったので、17団体を対象に実施しました。回答としては15団体の88%という回答率をいただいております。

設問の抜粋といたしましては5項目です。「団体への中学生登録はあるか」、「団体での中学生のみのチームの構成はあるか」、「指導者講習に係る費用の捻出はどうしているか」、「今後の部活動地域展開では中学生の受入れは可能か」、「中学生の受入れができない理由」というところを抜粋して上げさせていただきました。

結果といたしましては、各少年団の背景によって回答は異なるというところでした。既に受入れが可能となっている、去年先行して取り組んでいるというのが実情としてありました。現在取り組めていないという団体に関しましては、やはり指導者の仕事の関係や、指導者の講習料の個人負担の圧迫があるというところと、あと新たに中学校のクラブをつくる前に保護者から理解が得られるかどうかというところに不安があるということです。また、学校からの部活がスライドすることによって、その責任に対する不安感があるというところがアンケートとして答えがありました。

中には、部活動は大切な学校教育の一環と考えると部活動の地域展開は、顧問の先生と指導する方針の打合せをしっかりと行った上で、部活動で先生に指導を行ってもらい、先生をサポートする形で地域の方々が指導員として関わっていくことが理想だなというご意見もございました。

これらの2つのアンケートを行いまして、やはり受皿になるための指導者の発掘や育成が近々に必要だなというふうに我々としては考えています。

最後に、現在、市内の中学生加入の民間クラブの概要については、こちらに掲載しているとおりです。KBFさん、FC釜石さん、シーウェイブスアカデミーさん、今日ご出席い

ただいておりますKYVCさん、あと釜石ボーイズさん、釜石スイミングクラブさん、釜石柔道会さん、甲子ソフトテニススクールさん、あとは各空手教室さん、剣道のスポーツ少年団さん、ダンスのキッズDADAさんというところで、中学生の加入している民間クラブとなっております。

以上が当市の地域クラブの現状となっております。

○川崎教育部長 山崎課長、ご説明ありがとうございました。

これまで説明1、2ということで、学校部活動、それから地域クラブの現状について概要をご説明いただきました。

ここからは、3番、取り組み事例発表ということで、学校の部活動と地域クラブの具体的な取組事例の発表をお願いしたいと思います。

まずはじめに、唐丹中学校の金野校長先生からご説明をお願いいたします。

○唐丹中学校校長 唐丹中学校の校長の金野と申します。

唐丹中学校の部活動についてご説明いたします。よろしくお願いたします。

まず、1番目、生徒数です。令和7年度、全校生徒27名です。令和8年度、全校生徒25名になります。実は、1年の入学生は1名減で少なかったのですが、この間、唐丹中学校に入学したいという申出が他市町村からありましたので、このような形になっております。

2番目、本校の部活動規定より、部活動全般について概略をお話いたします。

(1) 種目についてです。常設部として野球部、バドミントン部、卓球部を開設しております。もちろんこの3つの部には本校職員が専属の顧問として部を担当しますし、それから市の部活動指導員の配置、また、保護者からの申出で外部コーチを委嘱する場合があります。

常設の特設部として陸上部があります。駅伝大会、通信陸上大会、それから予選免除で県大会に出場できる中総体、新人戦に希望者があれば参加するという形を取っております。それ以外に、申出がありましたら、校長の認めた場合に、特設部として中体連が主催する大会に参加することも可能としております。その際については、他の顧問になっている教員が随時臨時的顧問ということで登録してエントリーするということになります。これにつきましては、中体連主催の大会に限定します。各協会主催等の大会まで広げると切りがありませんので、中体連主催の大会ということで限定しております。

(2) 常設部の改廃と加入についてです。

1つ目、原則として常設部の廃部と新設は行わないということにしております。生徒数減ですので新設は難しいのですが、廃部もしないということです。これまで多くの学校でいろいろな条件をつけて、この条件に従った形で廃部するという方向で来ていますが、本校についてはこれをしません。バドミントン部、卓球部は個人種目ですので、1人でもエントリーできます。それから、野球部について、唐丹独特なものがありまして、とにかく廃部しないでほしいという地域の強い要望がありまして、合同チームでの練習に行く際に、実際には唐丹すぽこんクラブさんのほうで練習会場のほうまで送迎をしていたという実態があります。ただ、高齢化が進みまして、なかなかそれも難しく、タクシーを使って市の予算を活用するような形で進めていました。部員がいなくなった時点で休部扱いとし、廃部にはしません。休部になった部の顧問は、ほかの部の顧問に再配置をいたします。取りあえず休部中の部については、翌年の4月に必ず募集をします。

それから、唐丹中独特の活動になりますが、1つが、小学生の部活の参加を進めています。今年で6年目か7年目になります。小中が同じ敷地に入っているという利点を生かして、6年生、前は5年生もやったりもしましたが、6月の中総体以降、部活の見学を経て希望を募って、保護者同意の下で実際に部活に参加することとしています。平日、休日可能です。ただし、スポーツ保険の加入は必須としています。

新1年生の入部届につきましては、通常であれば入学後に部活動見学や体験入部を経て、4月の半ばから後半に入部という手続きを取るのですが、本校の場合は小学生も部活動に参加しておりますので、新入生説明会のときに加入届の用紙をお渡しして、入学式の日提出するという形を取っております。ということで、4月中の大会に1年生が参加できる。なかなか初めての子が参加するのは難しいですが、1年生が入ることによって、部員数が増えるのでエントリーできる大会も増えてくるということになります。

(3) 活動時間と休養日については、中体連や文科省、文化庁の申合せ事項に沿って活動していますので、ここは割愛いたします。

次に、活動経費についてです。

部活動に係る経費は、基本的に学校集金には含みません。集金している学校もありますが、唐丹中学校では一切集金しておりません。必要に応じて学校予算、生徒会費、PTA会計等から支出しております。

それから、中総体、新人戦地区大会に係る生徒輸送については、原則スクールバスを利用しております。県大会以上については、原則保護者と現地集合、現地解散としておりまして、PTA会費から若干の交通費を支給という形を取っております。

それから、保護者と相談の上、受益者負担をお願いすることもあります。唐丹小中学校はPTAを一本化しております。本来であれば小学校PTA、中学校PTAですが、保護者が重なっていて数が少ないですので、小学校、中学校を兼任しなければならない、何回もやらなければならないということで負担もありますので、小中で一本化しております。これは市P連総会で了承を得ております。学校運営協議会も同じように小中一本化です。

今までもPTAのほうから支出していましたが、入ってくるお金が減ってくるということで、部に関わるお金、特に県大会の旅費等は、前はPTAで払っていましたが、そういう事情があるので、先行きが見えているので、受益者負担にする、全部実費で保護者に負担してもらうということに一旦決めたのですが、統合も見えてきましたので、お金が残せないという部分もありまして、今言ったように、PTAのほうからも支出しております。

3番目、部活動の運営についてです。

(1) 部員数です。上の段が令和7年の中総体で3年生が入った数になります。その下、R8と書いていますが、申し訳ありません、ここはR7です。3年生が抜けてからの部員数になります。括弧の中は、中総体以降に退部した数になっております。数字に間違いがありますので訂正お願いいたします。卓球部が、「計8名(2)」となっておりますが、ここは「(1)」です。同じくその下、「6(1)」となっておりますが、ここは「(2)」です。バドミントン部男子は実際1・2年で4名いたのですが、1名辞めて、現状3名、卓球の女子は4名いたのですが、1名辞めて現状4名で、その他の括弧が1名退部したので1名増えているという意味です。表が分かりにくく申し訳ありません。現状、部活動に入っているのが、バドミントン部、男女合わせて5名、卓球男女合わせて8名です。ただし、こ

れが来年度、現1年生バドミントン部男子1名です。卓球部は女子1名だけになります。現在の6年生で入部予定で現在把握しているところで、バドミントンの女子1名、卓球女子1名という数になります。なので、新人戦ではバドミントン男子それぞれ2名ずつという現実が見えています。

また、学校の部活動と地域クラブに所属している生徒も複数おります。これにつきましては、年度当初、どの所属から中体連の大会にエントリーするかということを確認しております。これが1年間有効になります。本校の場合は、サッカーに3名、男子が1名所属でした。それから、水泳に2年生男子が所属、空手に1名所属。今年度の中総体に関しては、サッカーに入っている3年生男子は卓球ですので、卓球に出場しました。水泳の男子生徒2名のうち1名は、地区大会は自分の所属している部で行って、県大会のみ水泳に参加しました。それから、1名は新人戦のときに、所属部で地区大会にもエントリーしませんでした。

(2) 活動時間についてです。

通常であれば木曜日が5時間授業で木曜日以外が6時間授業になります。6時間授業ですと大体16時5分に帰りの会がありますので、16時10分から下校時間の16時45分、現行17時と書いてありますが、これはスクールバスが発車するのが17時としております。木曜日の場合は1時間余裕があります。

週休日、休日等については、大体午前中9時から12時のパターンが多いです。

働き方改革という点で1つ大きな問題点がありまして、唐丹中学校では職員の勤務時間が8時15分から16時45分までとなっています。スクールバスは17時出発になりますので、生徒の活動を考えるとこれは致し方ないということで、職員の下承を得てこのような時間設定になっています。

(3) 部活指導員、外部コーチについてです。

部活動指導員については、今年度、バドミントン部に1名配置していただきました。打診したところ、二つ返事で引き受けていただきました。職場のほうの理解もすぐいただきました。この方については、外部コーチとしても学校でお願いしております。

卓球部については、外部コーチが前におりましたが、お願いしていた方の都合がつかなくて、ここ2、3年、卓球部は不在となっております。

それから、保護者会についてです。

保護者会は両部ともありません。

会費については、先ほどお話ししたとおりですが、必要に応じて集金しております。バドミントン部については協会登録料500円、シャトル代として前期、後期各2,000円ずつ、一定の金額として集金して、それ以外に中総体・新人戦以外の大会に参加するときに必要な額を集金しています。卓球部についても同様に、中総体・新人戦大会以外の必要額を集金します。概算3,000円ぐらいです。

会計業務については、父母会がありませんので、全部顧問がやっています。これについても、これまで支払いが滞ったり、トラブル等はありませんが、規約や通帳等がないので、もう少し整理しなければなど思っているところです。

最後に、部活動指導員が入ったバドミントン部の活動についてご説明します。

まず、今年度4月より配置された方は地域のバドミントン団体の指導者で、週に3回ほど

夜に練習しております。部活動指導員さんの勤務につきましては、本業の関係で平日はかなり難しいということで、休日及び大会参加日ということで確認して始めました。ただ、部活指導員としての配置は初めてなので、軌道に乗るまでは大体4月いっぱい顧問もついでいただきました。5月からは、原則休日につきましては顧問がつかず、指導員さんにお任せしました。

鍵の取扱いについては、この方は夜、地域の団体で学校開放を使っているのも、鍵のやり取りには慣れているので、それと同じ方式で、土日についても体育館の開け閉めは部活動指導員さんをお願いしております。

指導員配置の成果と課題ということで、成果を4点ほど上げました。

1つ目が、現顧問が全員バドミントン未経験者で、専門的な指導をやっていただいております。2つ目が、休日の指導をお任せしたことによって、教員の働き方改革に大きく貢献できていると思います。3つ目が、現指導員は、以前から地域で指導している方ですので、小学校時代からほとんどの部員が指導を継続していることにより、指導の一貫性が保たれています。また、部活動のない日や短かった日は、地域の団体で参加することで、一貫した指導を受けることができるので、部活動時間の不足を補うことができます。4つ目が、現指導員は地域のリーダー格の人物になりますので、様々な面で学校の保護者、それから地域の連携を深めることができますし、とても協力的で非常に心強いです。

課題については、実は顧問と指導員さんが綿密に打合せをする場をつくるのが意外と難しいです。じっくり話をするという時間も取れません。休日に先生はつきませんので、顔を合わせる機会というのは実は意外とないです。なので、お互いの勤務時間でどこか折り合いをつけて合わせないと、その時間を生み出せないです。

あとは、教員は異動がありますので、地元にしつかりした人がいるのであれば、指導に生かせる考えると、こういう方がいるとすごく心強いなと思っております。

本校の部活動の状況については、以上です。

○川崎教育部長 金野先生、ありがとうございました。

部活動、それから学校現場のことも丁寧に説明いただきました。

続きまして、釜石ヤングバレーボールクラブでご指導されています監督の蛸島さんと理事の高木さんから、ふだんの取組の状況をご説明いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○釜石ヤングバレーボールクラブ監督 監督の蛸島と申します。よろしく申し上げます。

まず、1枚目、募集要項ですけれども、このような形で小学生、中学生のほうに出しております。今年の3月20日に体験会を計画しております、バレーボールの普及に努めていきたいなというところがございます。

団体規約を基に説明していきたいと思っております。

まず、名称はこのとおり、釜石ヤングバレーボールクラブ、ちなみに我々は通称KVと呼んでいますので、皆さんもぜひKVをお見知りおきいただければと思います。

2条はそのとおりです。

3条の目的になりますが、中学校部活動の地域活動の移行に伴い、その受皿となるため、令和5年11月1日に設立しました。バレーボールを通して、心身の健全化育成と技術の向上、相互の親睦を深め、バレーボールの普及を目指してやっております。強化もそうです

が、どちらかというと普及を主に考えてやっております。

令和5年に設立されましたが、そのときは大平中学校の生徒や甲子中学校の生徒、釜石中学校、釜石東中学校の生徒たちも参加しておりました。中総体の大会では敵同士戦っていたということです。ただ、バレーボールをお互い向上させましょうということで、そこから先を見通したときに、どうしても人数が少なくなるというのは各校で分かっていたので、中体連に団体登録をするため、結構当初は難しかったんですけども、いろいろな条件をクリアして団体登録しました。ただ、このときに問題があったのは、各中学校のチーム内から分裂という形が起きてしまいました。これはやむを得ないところだったのかなと思います。だから、よくよく考えて、自分の中学校チームを抜けて入ってきたという生徒もいました。非常にそこは近くで見ている私たちもかわいそうだなというのは一番思ったところですよ。

構成は、釜石・大槌地区の小学1年生から中学校3年生までです。ちなみに、これは基本的なところはそうなのですが、第5条のところのカテゴリーA、B、Cとありますが、カテゴリーAは中体連主催大会への出場を目指す選手たち、カテゴリーBはヤング大会というのがありまして、全国大会もあるんですけども、例えば湯田中、宮古の河南中といったところからも来ます。釜石ヤングでどうしてもやりたいというところで、週末練習に参加するという子もいました。カテゴリーCはスキルアップを目的とした小学校1年生から中学校3年生、小学生が3名ほど登録しております。主に土曜日の活動に参加しています。

登録可能なチーム数について、各競技団体でそれぞれ違いますが、サッカーであれば1チーム、F Cに入れば中学校のチームでは参加できません。バレーボールは3チームに登録可能です。ただし、3チーム登録した場合、1回ごとに500円払うので、1,500円かかります。というわけで、湯田のチーム、湯田中学校でも登録して、ヤングでも登録することが可能だということです。

ヤングの大会については、すごくお金がかかります。全国大会の予選で今年度決勝まで行きましたが、観客席にいる保護者たちは勝たなくていいみたいな感じがしていました。何十万かかります。そういったところで、経費など大変な部分があります。

会費は、カテゴリーAは年会費6,000円、月会費2,000円ということです。カテゴリーBは年会費3,000円、月会費1,000円、カテゴリーCは年会費1,000円、月会費1,000円という形になっておりますが、どういったことに使っているかというのは、第16条、経理です。まずJVAの登録料、スポーツ保険料、施設使用料、市民体育館を使用していますので、施設使用料です。あとは、大会登録料、これは中体連大会もかかりますし、それぞれいろいろな大会がありますので、その大会ごとにお金がかかります。一番かかるのはヤングの大会です。あとは、用具、消耗品の購入ということで、年度ごとにメーカーを替えます。たびたび新ボールになるので、そうするとまた全国の小・中・高・ママさんチームが全部買い替えます。あとは、指導者スポーツ保険料、大会での練習試合等で指導者への弁当や飲物代、指導者資格、随行審判制度というのがあって、バレーボールの審判員も県で少なくなっているの、大会に必ず各チーム審判資格を持った人を随行させてくださいということになっています。だから、各保護者の方々とか審判資格を取るために、そういったところにもお金を使っております。あとは、冬は灯油代です。市民体育館は暖房が効いておりますが、そうではないところで練習するとなると、やはり灯油代は必要になってきます。

あとは、結構遠征も行きますので高速道路代です。ホームグラウンドがないので、土日は普通であれば、中学校チームであれば自分の体育館でできますが、我々の場合はなかなかそういうことができないので、ほぼ遠征という形になります。だから、保護者もかなりの負担になっているかなと思います。

退団・休団については、ここに書いてあるとおりです。

第9条の役員については、総務部、理事、事務局、会計、監査という形で配置しております。指導者ですが、総監督、監督です。総監督は私とは別の方がやっております、栗林ラビーの監督さんでもあります。私が監督で、コーチは今3名登録しております。スタッフは今登録しているのは5名ですけれども、それ以外にも手伝いに来てくれるバレーを普及させたいという若い方々があります。非常に助かっています。ただ、全員ボランティアで一切お金を出していないので、非常に申し訳ないなと思っているところです。

職務等についてはそのとおりです。

活動場所については、募集要項に書いてありますが、活動場所・日時とありますが、釜石中学校体育館が火・金、釜石市民体育館が水・土、その時間帯でということになっていますが、これは確定しているものではありません。市民体育館も取れないときがありますし、釜石中学校体育館も学校行事で取れないときは、東中学校や小佐野小学校、栗林小学校の体育館を使ったり、そこら辺は本当に苦労しているところです。ホームグラウンドがないというのはとても大きな課題かなと思っています。

課題については、ホームがないために、ネット等の不備があります。中妻体育館はネットがありますが非常に粗悪品です。そういったところで、非常にそこら辺も市のほうで何とかしていただければありがたいなと思います。ネットも買いたいところですが、安いものではないです。あとは、中学校体育館を借りたりしていますが、連携が取れていないときがあります。学校、施設、管理者との連携をしっかりと取っていかないとまくななと思っています。いろいろな面でそういう苦労がございます。

○釜石ヤングバレーボールクラブ理事 今、監督が挙げたとおり、釜石東中学校で練習するときは、釜石東中学校のご厚意でボールやアンテナ、ネット以外にも必要な用具類を貸していただいています。釜石中学校のほうでは、体育でも使うということで、クラブチームのほうにはボールは貸出しできないということで、釜石中学校以外の生徒もいますが、みんな用具やボールを分けて持ち帰って、持ってくる子もいますし、おばあちゃんに送られてくる子もいるので苦労はすごく感じます。釜石中学校のほうにもお願いしに行ったりはしたんですけども、それは市のほうに言ってくださいということを言われたこともあったので、今こういう場で、そういうことで困っているところですので、そうしていただければなと思います。

○釜石ヤングバレーボールクラブ監督 最後に、唐丹中学校の校長先生が話しておりましたが、PTA会費から遠征費を出すということでしたが、ヤングに所属している生徒達はPTA会費は出しています。ところが、県大会出場になっても、一切交通費は支給されません。毎日新聞さんが1年間通してPTAの存在について報じておりますけれども、こういったところも精査していかなければいけないのではないのでしょうか。

以上です。

○川崎教育部長 ありがとうございます。丁寧にご説明いただきました。

部活動の現状、当市の地域クラブの現状ということで概要を説明いただいた後、ただいま唐丹中学校さんと釜石ヤングバレーボールクラブさんから現場の取組状況をご説明いただきました。

説明事項は以上となりますが、ここから4番の協議以降は小野市長に進行のほうをお願いしたいと思いますので、市長、どうぞよろしくお願ひいたします。

○**小野市長** それでは、しばらくの間、進行役を務めさせていただきますのでよろしくお願ひいたします。

まずは、これまでの説明をお聞きになって、教育委員の皆さんから、感想やご意見、質問等ございましたらお伺ひしたいと思います。

始めに佐野委員さんからよろしくお願ひいたします。

○**佐野委員** まずは、国の示した方針が若干変わってきているということで、地域移行から地域展開に変わったということとか、先ほどのスライドの3番ですけれども、例えば平成28年度、令和2年度を見ますと、働き方改革という表現が見られますが、それが徐々に表には出なくなってきているということです。教育長のお話がありましたけれども、少子化問題や子どもたちのニーズなどが多様化しているということに対処しなければいけないということと、それと並行して、やはり教員の多忙化解消、それはゆくゆくは教員不足にもつながる可能性もありますので、働き方改革というのも頭の片隅に入れて進めていかなければいけないのではないかなという感じがしました。

それと、やはりこういう事業を進めるに当たって、どうしても必要なのは場所と人とお金なんだなと思います。どうしても場所の確保と人材の確保というのが非常に大きな課題で、これは釜石市だけではなくて、地方の多くの自治体が抱えている問題であると思います。それをどういうふうにクリアしていくのかというのは大きな課題になると思います。

その中で、釜石市は教育委員会として、前段階として拠点校方式という方式を打ち出して、まずは児童生徒のニーズを捉えて、やりたい競技をやらせようとか、あるいは少なくなった部活をまとめて大会に参加できるようにしようという、そういう試みがなされているわけで、方向性としては非常によろしいのではないかと思います。それをどういうふうに地域展開につなげていくか、というところがやはりハードルがちょっとあると思います。

先ほどの説明の中に、花巻の事例がございましたが、花巻が地域連携型ということで、国の方針に沿った形として認められるのかどうか、私はその辺分からないので、部活動を地域展開するということと、地域連携型部活動、部活動として名前が残っているような感じもしますが、最終的にそういう形が認められるのか、あるいは移行の途中段階なのか、そういったのがちょっと分からないので、もしご存じでしたらお聞きしたいです。というのは、スライドの中に、休日の取組方針の中で、国としては当面部活動指導員の配置を推進し、中山間部や離島など特殊な事情により困難が伴う場合等には、とありますが、部活動指導員の配置というのはあくまでも最終目的ではなく、途中段階でやむを得ず認めるというスタンスなんではないでしょうか。そうしたときに、例えば地域連携型の花巻は非常に参考になると思うんですけども、部活動指導員的なものがやはりゆくゆくはあまり認められなくなるのかということも疑問に感じましたので教えていただければと思います。

いずれできるところからやっつけていかなければいけないということと、先ほどご説明のあったバレーの事例というのはなかなか進んでいるのではないかと感じました。カテゴリーの

A、B、Cまで分けて、ここまで活動内容をきちっとして募集されているというのは、私もここまではもちろん想定していませんし、すばらしい取組だなというふうに思います。いろいろな課題もあるようですけども、そういった課題を吸い上げて、少しずつ解決していくしかないのではないかなと思います。

唐丹の事例を見ましても、例えば休日は指導する方にお任せできるので、非常に働き方改革に貢献しているという先生方の意見もありましたし、あるいは専門指導できない部分を補っていただいているというお話もありましたので、これも働き方改革という意味では非常にいい方向性ではないかなと感じました。

いずれ今いろいろな事例がありますけれども、やれるところからどんどんやっていくしかないし、現在やっている競技を少しずつ増やしていければいいなと思うんですけども、やはりなかなか人材がないということが、これはどうしようもないんですけども、考えていかなければいけないところだと思います。バレーの蛸島さんも、学校のほうもよくご存じなので、本当に適任ということなんですけれども、なかなかそういう方がいるのかどうかということになると思います。あるいは育てていくのも必要ですし、いろいろなお金も必要だという話も出てきたので、そういったところはできるだけ市のほうでも支援していくという姿勢が必要なのではないかと思います。

あわせて、保護者の方々に部活動の地域展開の状況を知らせていく必要があるのではないかと思います。

以上です。

○**小野市長** 今のご質問に対して答弁ありましたら、お願いいたします。

○**岩淵学校教育課長** まず、部活動指導員の今後について、私たちとすれば、部活動指導員は学校の部活動に指導員として充てるという意味合いですので、今までのいろいろな国の資料を見ますけれども、今回も当面の間はという記載がございますし、地域展開が進む中で、部活動指導員の部分というのは減っていくのではないかと見ています。あくまでも学校の部活動を支える指導員であるということでございます。

花巻市の地域連携型学校部活動の今後の部分ということで、これは完成形かという部分ですけれども、資料のとおりになります。花巻市でも地域連携型の学校部活動は、これは完成形ではなくて、これを地域クラブに移していきたいというのが今後のスケジュールとして考えているところです。ただ、何千人いる中学生を今々地域で受け入れられるかという、それは非常に難しいです。花巻市では、もともと各学校の競技ごとに、いわゆる保護者会と言われるような、保護者で子どもたちの部活を支えようという組織体が元々あったということで、その中で今までも地域のコーチの方や保護者の方をコーチにして活動してきたので、地域の指導者や地域の力を入れて活動を支えていくという部分においては、その保護者会という活動体を生かして進めていくというのが非常に合理的だったのかなと思っています。ただ、先ほど言ったように、これが完成形ではなくて、この活動体を地域の関わりのウェートを大きくして行って、学校の関係を限りなく少なくしていくという形で地域に展開していくという方向性というようなものでありました。釜石市は、保護者会という組織体はないということで、そういったところも花巻市のモデルを取り入れるというよりは、そういった活動体をどのように整えていくかということも課題でございます。少ない部員であれば、それを支える保護者さんも少ないですので、例えば2人しかない部

の保護者が2人、3人というところで、どのように支えていくのかというところがありますので、花巻市はある程度部員数もいるということで、合同チームも少ないそうです。各競技に十分な人がいて、十分な保護者さんがいて、部活動を支えるという地域性があったのかなと、そういう認識でありました。いずれ花巻市でも地域に移していくというのが今後の方向性であるということです。

○**小野市長** 次に、花輪委員お願いします。

○**花輪委員** 実際うちの子も大槌のスポ少に行っていて、大会やオープン戦とかに出るんですけども、花巻市は、県大会を見てもクラブチームで実際出ています。卓球を今大槌で教えてもらっている方に、中総体等に出られないのか聞いたところ、バレーボールの方がおっしゃっていたように、少ない部活の人数でクラブチームに行ってしまうと学校で分裂が起きてしまうということでした。特に女子の場合はいじめが発生してしまうと言われました。卓球は個人のほかに団体もありますが、団体にあなたがいれば学校として出られるのに、あなたがそっちに行ったから学校として団体競技に出られなかったというのがあったみたいです。指導者も指導者で考えているんだなというのは実際感じたところです。

あとは、やっぱり人数が少ないです。釜石東中学校でバドミントンでクラブチームでやっている子がいるんですけども、学校の場合は中総体などバスを利用しますが、クラブチームだと保護者が送っていくので、交通費の問題や、土曜日に大体中総体があるので、学校は月曜日休みになりますが、クラブチームの子たちはどうなるのか、という保護者の意見もあったので、今後はどうするのかなと思いました。

○**小野市長** 公欠の取扱いについて、学校ではどのようになっているのでしょうか。

○**岩淵学校教育課長** 基本的には、各学校の学校長が判断するということにはなっていますけれども、何か地域で活動したり、例えば中総体に出るとか、クラブ活動として中総体に出るのは、同じ大会に出るという部分での扱いについては、学校のほうでも完全に線引きしているということではなくて、様々なご相談に乗りながら、柔軟に対応していただいているという認識です。ただ、これが本当に別の習い事とかとなるとまた違うかもしれませんが、同じ大会を目指しているというような部分であれば、そこはそういうふうに対応していただいているかなと思います。もし学校からの説明がないというのであれば、改めて学校とも確認していく必要があるかなと思います。

○**釜石ヤングバレーボールクラブ監督** 私も現職（中学校長）のとき、校長会でその議論がありました。私は、中体連大会以外のクラブチームの大会で公欠にならないようにしたかったんですけども、校長会の取決めとか話合いで、それはないでしょうということになったのですが、どういうことでそうなのかというと、やはり中体連大会ではないのか。現在も中体連大会に出るためには条件をクリアしなければいけない。これが一つ大きな問題なのではないかなと思います。中体連という組織が根本的に子どもたちのスポーツの自由さを奪っている部分もあるのではないかなと思います。そういう縛りがなければ、子どもたちはもっと好きなところで好きな種目をやれるのかなと感じます。ダンスとかも今世界大会もあるくらいですから、何も今までの中体連の企画にある種目だけではないじゃないですか。でも、どうしても中学校は中体連に縛られてしまっている。そこをやっぱり考えていかなければいけないのではないかな。なぜそういう声がなかなか出てこないのかなという疑問は常々思っています。

○**小野市長** 中田委員さん、お願いします。

○**中田委員** 中学校の生徒は、体も心もすごく成長が著しくて、それで同時に不安定なときだと思うから、やっぱり部活の存在というのは、勉強するのも大事ですけども、部活の存在というのもとても中学生にとっては大きな、すごく大事なところだなというふうになんと見ております。

今日のKVさんの目的のところでも、心身の健全な育成と相互の親睦というのが出ていますけれども、まさにそのとおりでと思いますし、部活動を通じて、心身だけではなく、上下関係や横のつながり、他校の生徒との親睦または刺激を受けて、中学生のときに経験することで、社会にとってすごく役立っているんだろうなと理解しています。そういう中で、釜石市の場合は少子化なので、それをどうやって釜石らしく子どもたちを育てていくかという中で、拠点校というのがまず一つの方策として出てきて、それによってある程度人数が確保できていけるというところで、今はそれで進めていると思います。ただ、人数を確保するのが目的ではなくて、もちろんそれは大事なことです。今後は生徒が本気でスポーツや芸術文化などに取り組める体制も、次の段階ではできたらつくっていく必要があると思います。そこは学校だけに頼るのではなく、地域や保護者、行政も含めて、きちんと深く本気で取り組んでいかないと課題ばかりになってきてしまうような気がしました。

今日、本当に唐丹中学校さんとKVさんの取組を聞いて、唐丹中学校さんのほうも地域の指導員の方が入ってもらうことによって、多分中学生も専門性の高い方が入ることで、本気で打ち込める時間というのが多分増えていると思います。KVさんのほうも、各学校の中学生が入ることは、実際に今まで蛸島さんは部活ということで経験してきていて、ここ2、3年になって、他校の生徒も一緒になっての地域で活動することは、課題もたくさんあると思いますが、いい部分というのも子どもたちにとっても大きいのではないかと思いますので、そういういいところを生かしながら、課題をきちんと整理してやれるところをどんどん解決してあげることが大事であるのかなというふうに考えています。また拠点校になることで、今まで自校に希望の部活がなかったけれども、今日も出ていたように、好きなスポーツができるようになったりとか、あと他校の生徒と交流する機会が増えたりといういいこともたくさんあると思うので、そういう釜石らしさでどんどん子どもたちのためにつくり上げていきたいなと思いました。

以上です。

○**小野市長** ありがとうございます。

市長部局の中村総務部長、お願いいたします。

○**中村総務企画部長** 今日改めて、部活動の今の地域展開というところを、国の動きだったり、あるいは市のこれまでの取組、課題、今の市内のクラブ団体、実践している各学校、クラブチーム、バレーボールのKVの話聞いて、それぞれがしっかりと役割分担を果たしていかないと成り立たないだろうなと思ってずっと聞いていました。もちろん行政としてもやらなければならないことはたくさんあると思います。ただ、やらなければならないことのそもそも整理がちゃんとできているのかなということが事務局として感じました。それをどう対応していくのか、対応できているのかというのを潰していかないと駄目だなと思っています。ただ、これは行政だけの問題ではなくて、地域と一緒にやるんだったら地域や親御さんも当然必要だし、あるいは地域を離れた釜石市内の中で、例えば指導者が、

地域を越えた指導者はどうあるべきかなど、そういったことを考えていかないと、多分成り立たないのではないかと感じて聞いていました。

最初から一貫して、疑問に思ったのは、先ほど蛸島さんが言ったとおり、中体連とは何なんだろうなというのは非常に私の中では引っかかっております。昔みたいに学校対抗でやっているときは、中総体がメインで、それを運営してくれる中体連というのは役割があったんでしょうけれども、今、国がこういった地域活動、地域展開を進めている中で、中体連と言っていると、多分田舎はどんどんそれに追いついていけないのではないかという考えです。ただ、これは釜石だけが幾ら中体連の存在をどうのこうの言ったって、どうなるわけではないのは分かっていますけれども、見直す必要があるのではないかと思います。そこがいろいろなところでネックになっていて、これをクリアできれば、いろいろなことが見えてくるのではないかと感じました。中体連を別に批判しているわけではなく、かなり大きいのではないかと思います。最初の岩渕課長の話でも、中体連があるからやりたい競技に行こうと誘ったけれども、出られないということなど、何かやろうとしていることと根本がずれているのではないかと感じました。今後とも行政としてはやるべきことをやっていきたいと思っています。

○小野市長 教育委員の皆さまからご意見をいただきました。

次に、学校教育課、そして文化スポーツ課のほうから何か補足の説明がありましたら、お願いをしたいと思います。

○川崎教育部長 特に両課のほうから補足はございません。

○小野市長 それでは、改めて川崎部長のほうから、今の話を受けて、お願いいたします。

○川崎教育部長 事例発表と教育委員の皆さまからご意見ありがとうございました。

釜石市では、地域移行の取組が令和5年からスタートして、5、6、7と3か年取り組んできました。大体今ある釜石市内の地域資源で、地域クラブとしてやっていけそうな種目、それから移行までにあと何年かかかりそうだという種目、文化スポーツ課長からもありましたけれども、受皿となる地域クラブ自体が、指導者の問題などで話し合い自体に時間がかかる種目があるというふうなことがおぼろげながら見えてきたというのがこの3年間の取組だったと思っています。

この後、次年度以降の取組、学校教育課と文化スポーツ課からも発表がありますけれども、私は、釜石東中学校の学校運営協議会の委員もやっているのですけれども、この間、令和7年度の総括の会議がありまして、その中で生徒を対象に行ったアンケートの結果報告がありました。学校にしてほしいもの、学校の望むものというアンケートがありまして、一番回答が多いのが、分かる授業をやってほしいというのが一番回答数が多かったです。2番目に回答が多かったのが、やっぱり部活動の充実ということでした。ということは、生徒さんの学校に対する満足度の半分は、分かる授業で、半分は課外活動、部活動だなということを改めて実感しました。その中で、部活動の活動場所が学校がいいのか、地域がいいのかということところは、我々大人が地域と一緒に担保していく必要があるのだろうなということを、今改めて皆さんのお話を聞いて感じた次第です。

ぜひ佐野委員からもお話がありました場所、人、お金の部分で、行政としてできることというのはたくさんあると思いますので、蛸島さんからもありましたけれども、移動の問題や公欠の問題など、これは多分潜在的にあった課題だったと思うんですけれども、部活動

の地域展開の取組で、改めて我々行政が向き合うべきタイミングに来ているんだろうなということを思いましたので、この後発表がある次年度の取組を含めまして、皆さんと課題を共有しながら、一つ一つできることから取り組んでまいりたいと考えた次第でございます。

私のほうからは以上です。

○**小野市長** ありがとうございます。

それでは、続きまして令和8年度の取組です。

学校教育課、そして文化スポーツ課のほうから、令和8年度以降の取組について報告をお願いいたします。

○**岩淵学校教育課長** 学校教育課から令和8年度の取組についてご説明いたします。

これが今般示されたガイドラインの概要について、先ほど佐野委員さんからもお話ありましたが、部活動指導員さんについては、永続的ではないのだろうなというふうにはいらんでいました。その代わり、大きく取り上げられているのが認定制度ということで、認定地域クラブ制度についてというところが今回強く出されているなというふうな感じがしております。こちらは、中学校を受け入れる地域の活動団体を、一定の要件を満たす場合、市がその団体を認定地域クラブとして認定して、その活動を支援していくという方針でございます。幾つかパッケージが示されておりまして、部活動の地域展開等推進事業ということで、例えばいわゆる地域のクラブ活動について、活動費を支援していきます。あとは、推進体制、例えばコーディネーターさんの配置に関わる部分などの補助についても示しているというところでございますので、次年度以降、こちらの事業を活用した制度設計について教育委員会として研究していきたいなと考えてございます。

あわせて、先ほど来お話が出ていました拠点校部活動というところでございますけれども、生徒の減少、部活動の減少が今後も考えられる当市におきましては、子どもたちの多様なニーズに応じながら、活動体をきちっと整えていくということで、持続可能性についても見出ししていきたいという考えでございます。

令和8年度は、部活動の拠点校化についても進めてまいりたいと考えています。これは先ほどお話もさせていただきましたが、自分の学校にやりたい部活動がなくて他校にはある場合、その他校の部活動に参加できるという仕組みです。こちらは中体連の規約もクリアできるきちとした制度ということですので、これまでの課題も解決できるかなというふうに考えております。この活動体に地域の力を加えながら地域展開を進めていきたいというふうに考えております。

令和8年度は、議会のほうでもご説明させていただいたとおり、4競技で拠点校化を検討して進めております。サッカーは釜石東中学校を拠点校、バスケットボール部女子は釜石中学校を拠点校、バレーボール男子も釜石中学校を拠点校、そして剣道男女、こちらも釜石中学校を拠点校ということで進めながら、状況に応じて、次年度以降、競技を増やしていけたらなというふうに考えております。

今後この内容につきましては、保護者への周知も進めていきたいと考えてございます。

学校教育課は以上でございます。

○**山崎文化スポーツ課長** 文化スポーツ課でございます。

特段資料は用意してございません。口頭のみで説明させていただきます。

先ほどの私の説明において、今の課題といたしましては、民間の地域クラブ等においても新たな指導者の発掘、指導者の育成が必要ということ認識した上で、来年度の事業といたしまして、指導者の指導資格に係る受講料、各種資格を取得するための講義等についての補助を1団体につき幾らというところを定めまして補助金制度を事業として実施したいと思っております。これに関しましては、改めて来年度、4月以降の広報等で周知するほか、体協さんやスポーツ少年団本部を介しまして説明会等々を開催していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○小野市長 それでは、ただいま令和8年度の方針について説明がありました。

委員さんのほうからただいまの説明について質問、ご意見等ありましたお願いしたいと思います。

○佐野委員 いろいろ国から示されたものを見ますと、例えば、先ほど場所、人、お金という話をしましたが、場所については、学校の施設を利用しているということになりますよね。それと、人についてはなかなか人材が見つからないということもあると思いますが、小学校の体育関係の教員や特別支援学校という文言もありましたけれども、なかなかそうはいっても簡単には見つからない気がします。

これは手厚く市が、例えば講習費など、資料のアンケート結果の課題の中には解決していけそうなものもあるような気がしますので、そこを手厚くやっていくしかないのではないかなと思いました。講習費の負担やいろいろな要望に応える形で、実際に先進事例であるヤングバレーボールクラブで困っていることが先ほどあがってきましたけれども、手厚く支援してあげるというのは、ほかの競技の方々も見ていますので、そういったのも必要になるのではないかと思います。市が丁寧にとにかく対応をしているんだということを、実際にやって実際に示していくということが必要になってくるのではないのでしょうか。

○小野市長 ありがとうございます。

最後に話をさせていただきたいと思えます。

この拠点校化と部活動の地域移行化、地域展開について、教育委員会、事務局をはじめ、すごく考えて準備して練られた方向性なんだろうと思っております。話を聞く限りは、まず国の地域移行、地域展開に向けて、市の中で拠点校化というものをワンステップ入れて、その次に地域展開に行くというのが、聞いている限りすごく現実的な話なのだろうと思っております。その中で、実際に拠点校化、あるいは展開をする上で、実際に始めてみないと分からない課題というのが多く出てくるのだろうと思っております。実際に始めてみないと分からない課題を丁寧に1つずつクリアしていく必要があるのだろうというのは、今日話を聞いて思いました。

そして、釜石の拠点校化を経てその地域展開が、最終的に釜石がどのような形になるかというのが、やはりそれぞれの自治体によって違うのではないかなという気もしております。完成形がどんな形になるかというのが、国がどれほど本気なのかというのにすごくかかっているのだろうなというふうには思っております。それぞれの自治体によってどのスポーツが得意なのか、どのスポーツに力を入れているのか、あるいは成り立ちが全然違う中で一括してこういう形を目指すということには私はならないのではないかなという思い

はしておりました。

今後、拠点校化を経て地域展開をする中で、やはり学校と行政、教育委員会、地域が密接に連携していく必要があるのだろうと思っておりました。そして、地域が何を望んでいるのか、保護者が何を望んでいるのか、そして行政が何ができるのか、教育委員会が何をできるのかといったことを一元的に取り計らって処理していく必要があるのかなという気がしております。

そのキーワードになるのがコーディネーターさんなのかなという気がしておりました。地域全体でこのスポーツにはこういう人材がいるという話とか、拠点校化するには例えばこの学校がいいですよといったようなのを、地域全体のことを分かっている人間というのは何人か必要で、教育委員会だけでやるというのは不可能なんだろうというふうに思っております。そういった人たちに助けをもらいながら、アドバイスをもらいながら、丁寧に拠点校化、そして地域展開を勧めて行く必要があるのだろうなと思っておりました。

費用の面も、先ほど来申し上げますけれども、国がどれほど本気なのかということにかかってくるんだろうなというふうに思っておりましたし、拠点校化、あるいは地域展開の最終形は、月金はそれぞれの学校で個人練習をしておくみたいな感じで、土日である程度時間があるときに拠点校化のところに集まって、コーチに来てもらって練習をして、拠点校化で培った経験などを地域展開にそのまま移していくというような感じなのかなというのは何となく思っておりました。

いずれにしても、子どもたちの大切な将来に関することですので、今後とも皆さんのご意見を伺いながら丁寧に進めさせていただきたいと思っておりました。今後ともどうかよろしく願いいたします。

以上で進行を事務局のほうへお返しをいたします。

○川崎教育部長 市長、これまで協議の進行をありがとうございました。

それでは、以上をもちまして令和7年度釜石市総合教育会議を閉会いたします。

本日はどうもありがとうございました。

午後3時27分閉会